

## 地域、職場から「賃金あげろ」の声を広げよう！

### 佐賀駅前新春早朝宣伝行動

新春1月7日の早朝。佐賀県労連は14春闘行動のはじめとして新春宣伝行動を佐賀駅前でおこない10名が参加しました。

北野議長は「マスコミが賃上げの必要性を訴えるなど、地域経済再生の鍵を握るのは『賃上げ』であることは国民的な総意となっている」「GDP（国内総生産）の6割を占める国民の消費購買力を引き上げるためには、6600万人、国民の6割にのぼる労働者の賃金を引き上げ、個人消費を拡大していくしかない」と訴え「今回のチャンスをいかすために、職場や地域から『賃金をあげよう』の声を一緒に広げていこう」と呼びかけました。

この日は春闘チラシと一緒にアメやティッシュなどをセットにして配った事もあり、用意した400個の配布物はあっという間に無くなりました。



## 第38回評議員会と新春「旗びらき」を開催

1月11日、佐賀県労連は第38回評議員会と、新春「旗びらき」（41名）を開催しました。

前段の評議員会、冒頭の挨拶で北野議長は今春闘の重点課題は「憲法と賃上げ」であるとし「アベノミクスで恩恵を受けているのは大企業だけ。安倍政権の暴走を止め、県民全体の力で春闘を勝利しよう」と訴えました。その後昨年提案した14年春闘方針や「総がかり作戦」などの組織拡大方針を確認しました。

今回数年ぶりに「暮らしを守る共同行動」と合同開催した新春「旗びらき」では、うたごえや自由法曹団や有明海訴訟なども参加。とりわけ来賓挨拶で有明海訴訟支援する会の岩井事務局長は、昨年12月20日の開門調査不履行問題に触れ「この問題は有明海だけの問題でなく、法治国家の原則を無視したという憲法問題に発展し、国民全体の問題となっている。」「この点からも引き続き支援をお願いしたい」と切実な訴えがありました。また建交労から新組合結成にむけた報告がありました。

お酒やおでんなどの料理を囲み、個人や団体ごとの意見交換をおこないながら、今年一年を「みんな、元気に」闘うことを確認しました。

